

「すこやかまつり (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

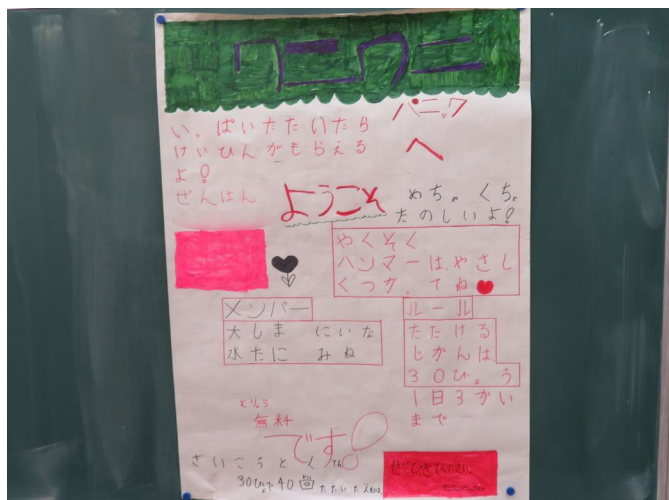
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「低学年」の語が現場でも混乱している。「1・2年生」を指す場合と「1～3年生」を指す場合が混在しているからだ。本校では研究上、1・2年生を「低学年」、3・4年生を「中学年」、5・6年生を「上学年」と呼んでいる。「1～3年」をくくる場合は「下学年」、「4～6年」をくくる場合は「上学年」と呼ぶ約束なのだが、あまり守られていない。こういう呼称は、教育界全体で統一したほうが良いと思っている。

私が関わった「低学年」の学年活動の「型」は2種類あったような気がする。一つは「博覧会型」というものだ。それぞれの子どもが興味を持った事項ごとにグループをつくり探究する。最後にそれを発表するために「博覧会」を開くという形だ。「春博覧会」「鳥博覧会」「石博覧会」などが記憶にある。

もう一つが「お祭り型」だ。これは特に大きなテーマは決めずに、興味関心ごとにグループをつくって、お店を開いて楽しむ、という形だ。「博覧会型」よりも「お祭り型」のほうが、全体的にハードルが低く、1年生の子どもには適しているように感じる。2月に実施した「すこやかまつり」もこの型の一つだ。



どの班も「お店」を開き、1年生同士で見合う活動なので、全体の宣伝だけでなく、それぞれの班がさまざまな宣伝ポスターを作る。これは文字を覚えたばかりに1年生にとって、「他者に伝える」という意味で大切な営みだろう。これは「ワニワニパニック」とい

う、「もぐらたたき」のようなゲームのお店の宣伝ポスターだ。私もやってみたかったのだが、常に行列ができていて、ついに試せずに終わってしまった。



こちらは「おめんづくり」のポスター。こちらは少しお客さんがいない時に、楽しませてもらった。



準備が終わって、学年全体にスケジュールや注意点を伝え、いよいよ前半・後半に分かれて活動開始した。



私はプレイルーム(多目的室の一つ)の担当だったので、そこに開店した6つのお店を見て回った。これは「金魚釣り」のお店。釣り竿のひもの先に磁石がついている。てるてる坊主のような金魚の中には、クリップがたくさん入っているという。なかなか面白い!